

大阪欄間

【産地組合】大阪欄間工芸協同組合

（産地紹介）

大阪欄間の始まりは 17 世紀初期で、大阪府内の聖神社や四天王寺等にその伝統技法のもととなる技術がみられます。その後、江戸時代中期には商家を中心とした一般の住宅の茶の間、客間等の鴨居（かもい）の上に、光を取り入れたり風通しを良くするという実用性と、品格を表すための室内装飾として取り付けられました。

大阪欄間には屋久杉の木目を生かした絵画調の「彫刻欄間」、キリの肌と透かし模様が調和した「透彫（すかしぼり）欄間」、模様を表した「箴（おさ）」、「組子（くみこ）欄間」、特異な「節抜（よぬき）欄間」があり、日本家屋にふさわしい、装飾と空気流れの機能性を備えています。

